

札幌リハビリテーション専門学校

学校関係者評価報告書

(令和4年)

学校法人西野学園

札幌リハビリテーション専門学校

令和4年10月
学校法人西野学園
札幌リハビリテーション専門学校
校長 田尻勝敏

学校関係者評価について（報告）

「職業実践専門課程」の認定を受けている本校では、平成24年度から教職員による「自己評価」を、さらに平成26年度から「自己評価」結果を踏まえた「学校関係者評価」を実施しています。

「職業実践専門課程」としての充実を図るため「学校関係者評価」の実施にあたっては、関係機関や本校の卒業生の方々から構成される学校関係者評価委員会を組織し、委員会を開催し、本校の「自己評価」結果をもとに、様々な観点から、多くの貴重なご意見やご要望をいただいております。

本校といたしましては、学校関係者評価委員会で評価して頂いたご意見やご要望に対して、速やかに改善策を検討し、広く社会のニーズに適した学校運営や教育課程の編成を組織的かつ継続的に取り組んでまいりますとともに、その概要について本学園のホームページ上に公開しております。今後ともより良い学校運営、教育活動を目指し、学校関係者の方々との連携・協力をはかり、教職員一同尽力してまいりたいと考えておりますので、今後とも皆さまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

「令和3年度学校関係者評価」につきまして、次のとおり報告いたします。

記

1 学校関係者評価委員 名簿

氏名	所属
杉原 俊一	医療法人秀友会 札幌秀友会病院 公益社団法人 北海道理学療法士会 常任理事
吉岡 英章	医療法人社団憲仁会 牧田病院 公益社団法人 北海道作業療法士会 副会長
佐藤 喜亮	社会医療法人社団三草会 クラーク病院
高松 尚徳	医療法人清仁会 北海道内科リウマチ科病院

2 学校関係者評価委員会開催日時

第1回 令和4年6月21日（火） 15:00～16:30

第2回 令和4年9月27日（火） 15:00～16:30

（第3回は令和5年2月28日（火）を予定）

3 今年度の学校関係者評価実施の流れ

令和4年 4月 令和3年度の教育活動等に関する「自己評価」を実施

“ 6月 令和4年度第1回学校関係者評価委員会を開催し、「自己評価」に基づく「学校関係者評価」を実施

“ 9月 令和4年度第2回学校関係者評価委員会を開催し、「学校関係者評価」の内容を確定

“ 10月 「令和3年度学校関係者評価」をホームページに公開

令和3年度 自己点検評価項目		令和元年度 自己評価 (平均)	令和2年度 自己評価 (平均)	令和3年度 自己評価 (平均)	学校関係者評価委員会による評価
I 教育理念・目標	1 理念・目標・育成人材像は定められているか。	4.7	5.0	5.0	「卒業後3年で他の養成校と差がつく人材育成」について効果がみえず、国家試験合格という現実的な目標達成にすり替わっているのではないかと、地方の人口減に伴う疾病構造の変化や医療従事者の偏在化、マイナンバーカードの活用による質の高い医療、高齢者層による介護サービスの増加等のニーズを踏まえた学園の将来構想を期待する。理学療法・作業療法学科共に、令和3年度よりも出願者数・入学数は増加傾向にあり、オープンキャンパス等学生・保護者等への積極的な情報公開などが功を奏していると思われる。第2シーズンのN'sシート委員会最終年であり、N'sシートの成果を分析し、継続・改善を期待する。
	2 社会のニーズ等を踏まえた学園の将来構想を抱いているか。	4.5	4.6	4.5	
	3 理念・目標・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか。	4.3	4.6	4.0	
II 学校運営	4 目標等に沿った運営方針が策定されているか。	4.5	4.8	5.0	新たな組織体制による影響が報告されており、学生に影響がでないように組織マネジメントの体制整備を要する。経営方針、学校方針と各学科の方針も明確であり、年間を通して各科で掲げた目標を達成できるよう進めて頂きたい。引き続き新型コロナウイルス感染症の対応は続くと思うが、対面授業とリモート授業の組み合わせによる反転学習等、教育方法の広がりを期待する。
	5 運営組織は明確にされ、有効に機能しているか。	4.0	4.8	5.0	
	6 情報システム等による業務の効率化が図られているか。	3.8	4.5	4.0	
	7 学校内総合力を高めるための連携と協働体制の確立が図られているか。	4.0	4.4	4.5	
III 教育活動	8 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	3.9	4.8	5.0	開通施設等、業界団体等の連携をより一層強め、学会や研究会への参加を教育過程に取り込むなどの工夫があってもよいのではないかと。教員の研修については、リモートにより受講しやすい環境の一方、教員の評価が低く研修や委員会が有意義なものになるよう進める必要がある。また、講師としての活動もぜひ行ってほしい。コロナ禍の中、リモート授業等でも工夫・改善して取り組み、国試合格率高くキープ出来ていることは評価出来る。既卒者の合格率の低さに関しては、秋のサポート学習参加を義務化するなど、今後の課題にして頂きたい。
	9 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4.5	4.6	5.0	
	10 学校行事の適切な企画、円滑な運営がなされているか。	4.7	4.2	4.0	
	11 授業規律を確保し、統一した指導体制のもとで教育活動が行われているか。	4.4	4.5	4.5	
	12 関連分野の企業、関連施設等、業界団体等の連携により、教育課程の編成や点検等が行われているか。	4.5	4.4	4.0	
	13 成績評価、単位認定の基準は明確になっているか。	4.5	4.8	5.0	
	14 授業評価の実施等、評価体制があるか。	4.5	4.8	5.0	
IV 学修成果	15 職員の能力開発のための研修が行われているか。	3.9	4.4	4.0	コロナ禍での就職活動の中、混乱なく就職活動出来たことは、就職サポートセンター・教員・学生が適切に協力して取り組めた成果であるが、医療福祉分野にとどまらず、スポーツ、観光、建築、交通分野などへ就職の幅を広げる努力が求められるのではないかと。令和3年度の休退学者が1年生に多く、精神面に問題を抱えている学生は、授業についていけない学生が多いとのことであった。精神面に問題を抱える学生との交流を通じた固有な自己の考え方を伝える事が重要なため、考え方の異なる他者との交流を期待する。西桜会においては、現状の支援体制の継続で良いと考えるが、学生の自己啓発、自己実現に向けた人間形成の場としての利活用も検討してはどうか？
	16 クラス担任と教科担任との連携を密にし、学生の実態に合った指導法の確立に努めているか。	4.6	4.6	5.0	
	17 就職率の向上は図られているか。	4.6	4.8	5.0	
V 学生支援	18 退学率の低減は図られているか。	4.4	3.8	4.0	卒業生の卒業後教育への支援、研究支援を職能団体と協力し進めていく必要がある。コロナ禍での就職活動の中、混乱なく就職活動出来たことは評価出来るが、学生相談室の利用低下の要因として、距離的な問題で活用が進まないのではあれば、オンラインで行うなど検討の余地はあると思われる。自己理解には他者との交流を通じた固有な自己の考え方を伝える事が重要なため、考え方の異なる他者との交流を期待する。西桜会においては、現状の支援体制の継続で良いと考えるが、学生の自己啓発、自己実現に向けた人間形成の場としての利活用も検討してはどうか？
	19 卒業生・在校生の社会的な活動を把握し、評価しているか。	4.2	4.2	4.0	
	20 学生相談に関する体制は活用されているか。	4.5	4.6	4.0	
	21 学生の経済的支援体制は整備されているか。	4.5	4.4	4.0	
	22 保護者と適切に連携しているか。	4.4	5.0	4.0	
	23 卒業生への支援体制は整備されているか。	3.8	4.2	4.0	
VI 教育環境	24 ロングホームルームなどを効果的に活用し、職業観・勤労観の育成に努めているか。	4.6	4.6	4.5	卒業生の卒業後教育への支援、研究支援を職能団体と協力し進めていく必要がある。コロナ禍での就職活動の中、混乱なく就職活動出来たことは評価出来るが、学生相談室の利用低下の要因として、距離的な問題で活用が進まないのではあれば、オンラインで行うなど検討の余地はあると思われる。自己理解には他者との交流を通じた固有な自己の考え方を伝える事が重要なため、考え方の異なる他者との交流を期待する。西桜会においては、現状の支援体制の継続で良いと考えるが、学生の自己啓発、自己実現に向けた人間形成の場としての利活用も検討してはどうか？
	25 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4.3	4.4	4.0	
	26 学生が自己理解、自己啓発、自己実現をするための方策が整備されているか。	4.4	4.4	4.0	
VII 学生募集	27 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	3.5	4.0	4.0	防災については学校設備だけの問題とせず、地震等の災害発生時には支援者としての活動も視野にいれて教育カリキュラムに取り入れる必要がある。避難訓練は一部制限下で行ったとのことであるが、有事の際でも即時対応できるようなシナリオを整備し、学生の防災意識が向上するよう進める必要がある。施設の利用が滞りなく進んでいる箇所もあると思われるため、施設の設備や点検は必要に応じて進め、より良い環境づくりを努める必要性は高い。図書室が教員と学生のコミュニケーションの場として活用されており、問題解決型学習の機会になることを期待する。
	28 図書室利用の活性化が図られているか。	2.8	4.2	4.5	
	29 防災に対する体制は整備されているか。	4.1	4.2	4.0	
VIII 財務	30 学生の募集は適正に行われているか。	4.3	4.3	4.0	少子化の中、PT、OTの確保は業界全体の課題である。診療報酬、介護報酬改定への働きかけとともに職業の魅力や業界全体で発信していく必要がある。オープンキャンパスや遠隔地の高校生に対して個別面談は、学生募集において効果的に行っていると考えられ、高校生に伝える教育成果の内容を再考し、本校の入学人数増加に繋がるよう更なる工夫・改善を期待する。
	31 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4.4	4.4	4.0	
IX 法令等の遵守	32 中長期的に学校の財政基盤は安定していると言えるか。	3.9	4.2	4.0	入学者数は確保できているため、今後も財政安定化に向けた基盤作りを継続する必要がある。
	33 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	3.5	4.4	4.0	
X 社会貢献等	34 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4.5	4.8	5.0	法令遵守に対する意識は浸透しており、適切な学校運営は実施できていると思われる。今後も法令遵守を意識しながら、適切な学校運営に努めて頂きたい。
	35 個人情報の保護のための対策がとられているか。	4.3	4.4	5.0	
XI 社会貢献等	36 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3.9	4.0	4.0	コロナ禍のため、ボランティア活動は激減しているとのことであるが、今後機会が増えた場合は積極的に参加して頂きたいと思う。コロナ感染による社会環境の変化の中、地域が求める内容も変化すると考えられ、地域との結びつきが途絶えないよう、努力を期待する。
	37 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	4.5	4.2	4.5	

評価基準 適切-5 ほぼ適切-4 やや適切-3 不適切-2 わからない-1